

第6回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会)会議録

日 時 令和4年11月22日(火)

18:40～20:20

場 所 ハピネス大広間

《町立病院》

出席者(委員): 瀬川聖子部会長、伊藤友美副部会長、麻生 翼委員、

品地和彦委員、渡邊匡子委員、山本大三委員

出席者(町) : 羽場剛健事務長、伊東和博主幹、丹治英樹主事補

▽施策項目「医療」

事務事業名「病院施設改修事業」

事務事業名「医療機器整備等事業」

町 : 内容説明

委員 : スプリンクラー設置不要になったのはどういった理由か。

町 : 下川消防署に確認した。

委員 : はじめに設置するとしたときは確認しなかったのか。

町 : はじめは令和7年度までに病院施設は設置しなければならないと国から通知があった。

委員 : 不親切な通知である。

町 : 設置が必要な施設の規模について詳細を十分に確認していなかった。

委員 : 今回LEDに交換することになったのはリースに関係してか。

町 : 議会でも説明したが設備投資に関する予算は本来だと当初予算で計上する内容だが、実施直後から経費削減につながることに、昨今の電気料高騰もあり、早期に実施することで経費削減効果が高いと判断したため、補正予算として計上し実施することとした。

委員 : 昨年、一昨年に行わなかったのはなぜか。

町 : 役場庁舎などの町の施設でLED化を実施していたタイミングで病院は実施していなかったが、その理由は当時のLED電灯は調光ができず、入院患者に迷

惑がかかると考えたためと予想している。今回、導入したものは100%、70%、50%、30%で調光が可能である。

委員 : 電子カルテシステムは何年ごとに更新が必要なのか。

町 : 5年ごとの更新を考えている。

委員 : 現在、病院を休診している理由と経緯を教えてください。

町 : 20日に職員の一人が体調不良を訴え検査したところ新型コロナウイルス感染症の陽性であった。21日の朝に職員と入院患者を検査して陰性を確認したうえで職務にあたっているが、陽性となった職員が外来業務の担当職員であったため、外来を21日から25日まで休診とした。

委員 : 病棟は通常どおり運営しているのか。

町 : そうである。

委員 : 外来担当の職員で感染リスクを分散させるような対応はしていなかったのか。

町 : 外来は月曜から金曜の日中のため、勤務時間は重なる。病棟は夜勤などもあるシフト制のため、出勤する職員の調整もできる。

委員 : 今後もこのようなことが起こりうるという事か。

町 : そうである。

委員 : 対応策はあるか。

町 : 新型コロナウイルス感染症の感染源がわからないため、マスク着用や手指消毒など、職員の予防策を徹底していく。

委員 : インフルエンザの予防接種も25日まで行わないのか。

町 : 25日より打てるが、休診を知らずに病院に来てしまった方に限り接種する。

委員 : 町の決算の補助費の中に病院に対するものとあるが、直近の額を教えてください。

町 : 決算書を持参していないため、詳細は分からないが2億4千万円と国保からの補助金と備品購入の際に町から1/2の額を負担する取り決めとなっている。

委員 : ここ数年は同じような金額か。

町 : 去年、備品購入しているがコロナ関係の補助金を利用したため、町独自の補助金ではない。

委員 : 病院運営に関して将来の計画など議論はしているか。

- 町 : 病院の今後のあり方についての議論は今後行うことになるが、上川北部圏域の中での下川の病院のあり方など、広域的に考えなければならぬときが来ると予想しているが、病院をなくすといったことは考えていない。
- 委員 : 患者が名寄に通っている理由はあるか。
- 町 : 皮膚科や外科といった専門の医師がいるためだと考えている。内科や小児科などは下川で問題なく診れる。
- 委員 : 地域医療連携システムにより以前よりも他の病院との連携がとりやすくなっている。そのため、大きな病院にかかっている患者でも容態が落ち着けば地元近くの病院で診てもらえるようになってきている。
- 委員 : 上川北部圏域の中での病院のあり方はどのように決めるのか。
- 町 : 町長が会員で協議会がある。上川北部の中で下川は回復期を担当している。
- 委員 : 町立病院はコロナ対策をしっかりとっていると思う。今後も続けてもらいたい。

《あけぼの園》

出席者（委員）：瀬川聖子部会長、伊藤友美副部会長、麻生 翼委員、
品地和彦委員、渡邊匡子委員、山本大三委員

出席者（町）：齋藤英夫園長、平間 明主幹、遠藤智康主幹、長谷川美栄子主査

▽施策項目「あけぼの園」

事業名「あけぼの園等施設改修工事」

事業名「あけぼの園等 I C T 化等整備事業」

- 町 : 内容説明
- 委員 : ナースコールは病院とは別のものなのか。
- 町 : 病院と同じである。
- 委員 : 病院と一緒に見積もりをもらったら経費削減になるのではないか。
- 町 : 既存の設備を利用して更新するため、同じメーカーであれば可能だと思うが、現在は調整をとっていない。

- 委員 : 導入することで、今後継続的にかかる費用はないのか。
- 町 : ナースコールとシフト作成については、電気代がかかる。
- 委員 : 管理コストなどはどうなのか。
- 町 : 故障したときの修繕料と保守管理料が出てくる。年間で 20 万～30 万円かかる。
- 委員 : 全部まとめてなのか。
- 町 : シフト作成については、今回リースなので、ランニングコストで出てくるものはない。
- 委員 : 5 年後はどうなのか。
- 町 : ソフト関係は 5 年で新しいものに切り替えて基本的には 162 万円が続いていく。
- 委員 : 導入によってコストの削減とか利益が出るものはあるのか。
- 町 : 利用者に対してのサービス向上で、事務作業で時間を減らし利用者との向き合える時間を増やす。職員の労務改善を目的としているので、現状の人数で運営できれば、事業費の増加も防げると思う。
- 委員 : 前回の 10 年間の繰出金の経緯をお願いしたい。
- 町 : 資料に基づき説明
- 委員 : 給料は誰が決めるのか。
- 町 : 給料は町の条例で決まっている。
- 委員 : 人員配置は誰が決めるのか。採用計画とか人員配置は誰がきめるのか。
- 町 : 施設の配置基準は国で決まっていて、最低の人数はおかないといけない。業務をする中で、国の基準はあくまでも平均的な基準で、週休・休日・夏季休などがあるので、そこで配置を考え人数が足りなければ町に要望します。任用職員についても、これだけ人数が足りていないという理由で町に要望する。
- 委員 : 例えば、あけぼの園が民間施設だったら、このままだと赤字が続くので、収入を上げようとか、あるいは人員を減らそうとかの判断等をあけぼの園だったら下川町だと誰がするのか。
- 町 : あけぼの園で判断して理事者側に報告し、最終的には町長になる。
- 委員 : 園としては、設置基準はギリギリなのか。

- 町 : ギリギリである。
- 委員 : 人件費はこれ以上削ることはできないのか。
- 町 : 長く務めた方が退職して、新しい方を採用したら人件費が下がる。その循環がスムーズにいけば人件費が下がる可能性はある。
- 委員 : 今後 5 千万円くらいの赤字を圧縮する方法は考えているのか。最大限努力しての赤字なのか、この 5 千万円の赤字は前提なのか。
- 町 : 今でも人件費は足りないと考えている。介護職員を確保するのに賃金が業務に対して安すぎる。お金で解決するか作業効率化を図って労務改善を図って働きやすい職場を目指すかだと思う。民間だと運営が優先になってくると思うが、あけぼの園は直営で運営しているので、甘えていると思われる。ただ良質なサービスを提供するためには、必要最低限の人数を確保しないとイケなく、福祉の町を掲げている。町が責任をもつ腹づもりをしていただいていると思うので、今の状況で進めていくのが良いのではないかと思う。
- 委員 : 人員は、国で定めている基準のギリギリで行っているのか。
- 町 : 常勤換算では、昨年で 21 だったのが、今年は正職員にしたため 7 時間勤務の方が 7 時間 45 分になり、それを「1 人」と考えれば、その分が少し上がっていて 23 になっている。
- 委員 : 国の基準は 23 なのか。
- 町 : 国の基準は 3 人に対し 1 人です。入所定員が 56 名で短期が 9 名合計 65 名で、3 で割ると丁度くらい。
- 委員 : 人員は介護度によって変わるのか。
- 町 : 介護度があがっても 3 人に 1 人。
- 委員 : 介護度が高い方が多いと、同じ人数でも作業量が増え、大変になるということか。
- 町 : そのとおり。ただ介護報酬は介護度によって変わってくるので、高くなる。
- 委員 : 介護度が高い人だけでも 3 人に 1 人なのか。
- 町 : 3 人に 1 人。
- 委員 : 働いている人が少しでも楽が出来るように機械化も理解でき、現状募集

していても、なかなか山びこ学園もあけぼの園も応募が来ないのは理解している。民間のケースだと、赤字になれば、入居されている方から多くもらうしかない。

委員 : 利用されている方も時代とともに利用料は上がってきているのか。

町 : 介護報酬があがれば割合負担でいただくので、1割負担で、収入によっては3割負担になる。

委員 : 介護報酬だけで変動するのか。

町 : 介護報酬は見直しされている。

委員 : 今後、建替えを考えているのか。

町 : 現在、建替えと大規模改修は不可能と思っている。

委員 : 老人ホームを下川に建設した経緯は何か。

町 : 町史にも記載されているが、当時は建設するのも難しく、かなり運動して建設した。

委員 : あけぼの園の照明はLEDなのか。

町 : LEDである。

委員 : 昔はあけぼの基金が4千万あったが、どうして昔は基金を積めたのか。

町 : 金額面では判断できない部分がある。

委員 : 昔は措置費があり、国から一定の金額がもらえていたが、介護保険が始まり、少しずつ減っていったのかもしれない。

委員 : 時代背景が変わってきたということなのか。

町 : 私があけぼの園に勤務したころは、女性職員が多く、募集をかければ誰かが応募してくるような状況だった。結婚や退職してまた新しい方が採用される状況で、人が上手く入れ替わっていたため、人件費のバランスがとれていたと思う。最近は半数が男性職員で長く務めるようになり、給料も上がってきているため、人件費も膨らんできている部分もある。